

施策No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	農林課	主管課長名	秋山 豊
4-1	施策名	農林業の振興	関係課	農業委員会、商工観光課、生活環境課、給食センター、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
					見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	見込値
的	農業者	①販売農家戸数	人		見込値	1,600	1,580	1,560	1,540	1,520	
					実績値	1,581	1,581				
			人			見込値					
						実績値					
						見込値					
						実績値					
	施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
	的	担い手が育成されて、農業が活発に営まれている。	①市内の農業所得総額	千円		目標値	380,000	390,000	400,000	410,000	420,000
						実績値	548,119	710,249			
②認定農業者数			人			目標値	285	290	295	300	310
						実績値	280	276			
③耕作放棄地面積			a			目標値	4,107.0	4,153.0	4,199.0	4,245.0	4,291.0
						実績値	4,760.0	5,173.0			
④山林整備面積			ha			目標値	16.5	15.0	15.0	15.0	15.0
						実績値	16.8	9.97			
⑤有害鳥獣捕獲頭数			頭			目標値	750	750	750	750	750
						実績値	793	1,296			
成果指標設定の考え方	農業が活発になるためには、地域農業の担い手である認定農業者の増加に加え、農業従事者の所得向上が不可欠である。また、それらを満たす条件として、耕作放棄地の減少や有害鳥獣の駆除などの農村環境の整備が必要である。										
成果指標の把握方法と算定式等	①「市内の農業所得総額」－税務課の課税データ ②「認定農業者数」－農林課所管の認定農業者名簿 ③「耕作放棄地面積」－農業委員会所管の耕作放棄地調査表 ④「山林整備面積」－農林課所管の森林整備事業実施面積 ⑤「有害鳥獣捕獲頭数」－農林課所管の有害捕獲計画										

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>①農業所得については、29年度548,119千円、30年度で710,249千円と増加している。これは、29年度にひょう被害・台風等の天候不順による減少からの回復によるものと、輸出生産・出荷に対する補助金交付の開始及び、飼料米と比べ輸出生産の割合が高いため輸出米の作付けが拡大したことにより農業所得の増加となった。</p> <p>②認定農業者数は、29年度は280人、30年度276人と横ばいの結果となった。</p> <p>③耕作放棄地については、29年度4,760a、30年度5,173aで前年度から413a増加している。これらは、中山間部でのイノシシによる農作物の被害増加により、年々農地の遊休化から放棄地へと進行していることによる。</p> <p>④山林整備面積については、29年度16.8ha、30年度9.97haと6.83ha減少している。これは、関連する2つの事業のうちの1つである森林機能緊急回復整備事業が平成29年度で事業終了となったことが大きな要因である。もう一方の継続中である身近なみどり整備推進事業だけをみると、29年度5.4ha、30年度9.97haと4.57ha増加している。</p> <p>⑤有害鳥獣捕獲頭数は、29年度から新たに設定した成果指標であり、29年度の目標値は達成した。30年度の捕獲頭数は、1,296頭であり、前年度の捕獲頭数を大きく上回っている。</p> <p>・ 昨年度から比較し①農業所得、⑤有害鳥獣捕獲頭数が大幅に上回っているため「成果がどちらかといえば向上した。」とする。</p>		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<p>①市内の農業所得総額は、平成27年度より上昇傾向にあり、30年度は目標値390,000千円に対し、710,249千円と目標値を大きく上回った。</p> <p>②認定農業者数は、30年度目標値290人に対し276人と14人下回った。</p> <p>③耕作放棄地面積は、30年度目標値4,153aに対し5,173aと拡大し放棄地増加に歯止めがかかっていない状況である。</p> <p>④森林整備の要望による事業であり30年度目標値15.0haに対して9.97haと下回った。</p> <p>⑤有害鳥獣捕獲頭数は、30年度目標値である750頭に対して1,296頭と目標値を大きく上回った。</p> <p>・ ①～⑤について目標値を下回っているものが多いが、①農業所得、⑤有害鳥獣捕獲頭数が大幅に上回っているため「一部の成果指数で目標値を上回った。」とする。</p>		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
<p>施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。</p> <p>・農業経営支援事業では、市内農業の中心経営体である認定農業者等に対し、必要な農業機械やパイプハウスの資材費補助などを行い経営を支援した。</p> <p>・備かる産地支援事業では、H30年度は、JA北つば大和選果場において、糖度保証を可能とする光センサーを備えた高度なトマトの選果機を導入。選果機の導入費用に対し、国及び市の事業により補助金の支援を行った。選果機の導入により契約出荷の増加及び、販売額の増加が期待できる。</p>	<p>・認定農業者は、減少傾向にあるが、農業法人化を進めることで量から質への転換を図っていく必要がある。このため農地集積による生産性の向上や各種助成制度を利用した効率的な農業経営を支援していく。</p> <p>・耕作放棄地については、農業委員及び農地利用最適化推進委員による実態把握調査を行い、耕作放棄地の解消に努めていく予定である。</p> <p>・有害鳥獣対策事業のイノシシ捕獲の担い手の確保及び育成を推進していく。</p>